

事業名：千葉県通学路推進事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：市原市八幡東中学校区

拠点校：市原市立若宮小学校

所轄教育委員会：市原市教育委員会

電話番号：0436-41-2364

### 1 モデル地域の現状

○モデル地域名：市原市八幡東中学校区  
 ○学校数：小学校1校  
                   中学校1校  
 ○モデル地域の安全上の課題  
     モデル地域の若宮小学校区は、JR八幡宿駅を最寄りとした若宮団地を中心とした学区である。団地としては比較的古く、大通りを一本入ると閑静な住宅街であるが、近隣に、高速道路や大型の商業施設があることから、交通量の多い道路が近くを通っている。渋滞を避けて抜け道として団地内を通行する運転手も多く、小中学生の飛び出しや自転車乗用中の事故には十分な注意が必要である。

### 2 モデル地域の事業目標

拠点校として、交通安全に係る取組を行い、中学校区内に実践を普及させるとともに、市内の交通安全を推進する。また、地域や関係機関とともに通学路等に潜む危険な個所を点検、確認することにより、登下校時の安全な行動につながるような学習に取り組む。

### 3 取組の概要

#### (1) 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○校内研修(学校安全計画や年間指導計画について・各学年の安全教育への	小学校

月	取組	関係機関
5月	○1・4年生;交通安全教室 ○登下校指導・あいさつ運動実施	交通安全協会 小学校
6月	○避難訓練及び親子通学路点検 ○実態調査アンケート(小学校第1回)	小学校・保護者 小学校
7月	○第1回合同推進委員会(書面会議) ○第1回実践委員会(研究の方向性、研究計画等について) ○登下校指導・あいさつ運動実施	実践委員 実践委員 小学校
8月	○校内研修(アンケートとりまとめ、安全マップ作成、校内環境整備計画等)	小学校
9月	○実態調査アンケート(中学校第1・2回) ○スケアード・ストレイトを組み込んだ授業 ○八幡東中学校のスケアード・ストレイトを組み込んだ授業の動画による授業	中学校 中学校・実践委員 小学校(6年生)

10月	○第2回実践委員会 (スケアード・スト レイトを組み込ん だ授業の振り返り、 若宮小学校通学路 の視察)	実践委員
	○校内研修(公開授業 指導案検討、安全標 語募集)	小学校
	○登下校指導・あいさ つ運動	小学校
	○校内研修(公開授業 指導案検討、安全標 語募集・掲示・表彰)	小学校
	○登下校指導・あいさ つ運動	小学校
11月	○第2回実践委員会 (校内研究授業及び ご指導)	実践委員
	○第1回交通安全講 演会(講師;稲垣具 志准教授)	実践委員 職員 保護者 (Teams)
12月	○実態調査アンケー ト(小学校第2回)	小学校
	○校内研修(公開授業 指導案検討、安全標 語募集・掲示・表彰)	小学校 市教委
	○登下校指導・あいさ つ運動	小学校
	○公開授業研究会	実践委員 市教委
	○校内研修(安全標語 募集・掲示・表彰)	小学校
	○実態調査アンケー ト(小学校第3回)	小学校
	○第2回交通安全講	実践委員

1月	演会(講師;稲垣具 志准教授)	職員 保護者 (Teams)
	○登下校指導・あいさ つ運動	小学校
	○校内研修(研究のま とめ、研究紀要作 成)	小学校 小学校
2月	○登下校指導・あいさ つ運動	
	○第2回合同推進委 員会参加	県庁関係 課、県・市 教委、 学校等
	○校内研修(次年度の 方向性)	小学校
	○登下校指導・あいさ つ運動	小学校

#### 4 具体的な取組

##### (1) 安全教育の充実に関する取り組み

##### ア 安全教育の充実に関する取組

##### ① 実践委員会における情報共有

6月、11月に実践委員会を開催。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、各学校の実践等について共有を図った。

<実践委員>

東京都市大学准教授、南房総教育事務所指導主事、市原市教育委員会指導主事、若宮団地連合自治会長、八幡東中学校校長・教頭、若宮小学校校長・教頭・教務主任・研究主任・安全主任

##### ② 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施。

※新型コロナウイルス感染症対策として、一般公開とせず、学校 HP へ研究紀要を公開する形式とした。

日時：令和 3 年 12 月 17 日

テーマ：自ら課題を見出し、よりよく解決しようとする児童の育成

内容：学区探検を通して交通安全に気を付けるべき場所の調査・紹介。

QRコードで危険個所の安全動画につながる安全マップづくり。自転車教習所を設営・実践し、交通安全の意識向上につなげるなど。

参加者：南房総教育事務所、市原市教育委員会、八幡東中学校校長・教頭、若宮団地連合自治会長

参加人数：7名

③講演会の開催

モデル地域内において、学校安全アドバイザーによる講演会を実施。

※新型コロナウイルス感染症対策として、保護者は児童のタブレットを利用して Teams により配信した。

○第 1 回交通安全講演会

日時：令和 3 年 11 月 2 日

テーマ：子どもの道路横断の判断力とは？

内容：子どもの道路横断時の行動のエラーを分析し、地域住民が主体となって積極的に子どもの安全を守る事の重要性を、様々な実験や実践の紹介から伝えた。

参加者：実践委員、職員、

Teams により保護者へ配信

参加人数：約 80 名

○第 2 回交通安全講演会

日時：令和 3 年 12 月 17 日

テーマ：自転車事故の当事者とさせ

ないために伝えるべきこととは？

内容：「自転車は極めて主観的な乗り物」という見方から、自転車が交通ルールを違反する状況を分析した。特に交差点での車と自転車による事故の調査を中心として、安全利用を推進するマンパワーの必要性や、自転車と車のコミュニケーションの大切さなどが話された。

参加者：実践委員、職員、

Teams により保護者へ配信

参加人数：約 60 名

④交通安全教室（スケアード・ストレイト）の開催

モデル地域内の中学校を会場に、スケアード・ストレイトを組み入れた交通安全教室を実施。

※新型コロナウイルス感染症対策として拠点校の児童は、中学校の安全教室の映像により行った。

日時：令和 3 年 9 月 27 日

内容：スケアード・ストレイトを組み入れた交通安全教室

参加者：八幡東中学校生徒、実践委員

参加人数：約 100 人

⑤講師による通学路の視察

ア 東京都市大学准教授 稲垣具志

派遣校数 1 校

派遣回数 3 回



交通安全講演会

**イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について**

①拠点校におけるアンケート結果（第1回6月と第2回11月実施の比較）  
 ア 歩行時の交通ルールや行動に関して、「右側を歩く」「信号の無い交差点で左右を確認する」「信号のある交差点で左右を確認する」との回答が2～7%向上した。

イ 通学路での危険な場所を「知っている」の回答が5%増えた。危険な場所への見方が注意深くなってきた。

ウ 自転車で「左側を走る」との回答が10%増えた。自転車走行のルールについての意識の向上が伺える。

②スケアード・・・ストレイトを組み込んだ安全教室での感想

ア 八幡東中学校

○ヘルメットがいかに大切かわかった。内輪差のことを知らなかったので気を付けたい。実際に見て、自分にも起こり得る身近な事故だと思い、より怖く感じた。

イ 若宮小学校

○自分のことだけ考えるのではなく、未来のこと・交通ルールを守ることを考えなければと思った。再現がすごくわかりやすかったので事故の怖さがわかった。

**(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組**

ア 市内一斉防災訓練（引き渡し訓練）の際に、通学路の危険個所の確認を行った。その集計を安全マ

ップにして校内に掲示した。

イ 2回の交通安全講演会を実施して視聴した保護者の方から感想をいただいた。

○子どもの道路横断時の判断力の低さに驚いた。

○自転車に乗る際に交通ルールを守る難しさとお叱りを感じた。

ウ 授業での安全マップづくりの際に交通指導ボランティアの方に協力していただいた。

**(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について**

①実践委員会の中で、稲垣准教授を講師として通学路の現地調査を行った。道路の構造や交通ルールをもとにして、想定される危険について指導を受けた。

**(4) その他の取組について**

① 公開授業の様子から

	
2年生「わたしの町はっけん」	
	
4年生「安全なくらしをまもろう」	
	
5年生「自転車教習所をつくろう」	

② スケアード・ストレイトを組み込んだ安全教室の様子



③ 交通安全教室の様子



④ 標語コンクールの様子



⑤ 安全マップ



険予測力の向上が見られた。

- 交通安全講演会の実施や研究の取組の発信等により、保護者の交通安全に対する意識が向上した。

**【課題】**

- 通学路の交通安全は全校児童に関わることである。今回の取組で、授業研究に直接関係しなかった児童への働きかけも必要である。
- 保護者やP T A、交通安全ボランティアの方々との連携を更に図り、地域をあげての交通安全への取組の方策を考えたい。
- 今年度の取組をもとにして、来年度は更に説得力のあるデータを集めたり、調査した内容を伝える活動を充実させたりしていきたい。

**5 取組の成果と課題**

**【成果】**

- 児童の交通安全についての、基本的な知識への理解が向上した。
- 安全マップや自転車教習所づくりなどの体験的な活動を通して、交通ルールの順守についての意識が高まり、危